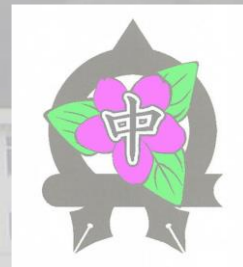


協働



異文化と日本文化

校長 西村 元一

9月に入り、3年生は修学旅行で京都・奈良の日本の伝統・文化に触れ、9月30日には、留学生をお迎えして全学年対象に国際交流会が行われました。国際理解の第一歩は自国文化の理解です。修学旅行を通して感じた、日本文化雑感について述べたいと思います。

写真の上段は京都、下段はフランスのベルサイユ宮殿の庭です。



日本の庭は、木々や苔のもつ風情をあるがままに生かし(左上)、石はその石本来の形を生かし(中央上)、水は滝を流れ落ちる自然の流れを生かしています(右上)。西洋の庭は、花や草木は人間の意図の下で植え、剪定され(左下)、石は石像などに形を変え(中央下)、水の流れは噴水として人間がコントロールしています(右下)。

日本の庭からは、人間の意図よりも自然のよさを生かそうとする思いを感じます。頭に浮かんだのは「以心伝心」(思いが言葉によらず心と心で伝わる)という言葉です。自分より相手の心に思い巡らせる文化を感じます。米国に派遣されたとき、「米国では、考え・意思・功績などは、主張しなければ認められない」と聞きました。以心伝心は難しいようです。

修学旅行の帰りのバスで、生徒が一言ずつ話す機会がありました。「みんな大きくなけりもなく、無事に3日間を終えられたのが何より」、「修学旅行中、みんなが楽しそうにしていたのが印象的で、それが良かった」、「参加できなかった仲間にお土産を買って帰ることに、みんなが賛成してくれたのが本当に良かった」。自分のことよりも他者を思いやる心があふれ、日本のよき文化の通う優しさあふれる3年生集団に、心温まりました。

私が経験した京都・奈良の修学旅行の中で、最も安心して見ていられる3年生でした。

9・10月の奥多摩中学校

9月30日（金）国際交流会

「留学生が先生」プロジェクトによる国際交流会を行いました。今年度はポーランド、中華人民共和国、スロバキアの3か国からの留学生をお招きし、様々なお話を聞きました。それぞれの国について理解を深めるとともに、日本の良さについても再認識する時間となりました。



10月6日（木）芸術鑑賞教室

今年の芸術鑑賞教室は、劇団「シアタージャパン」による「ミュージカル 夢果てるとも～ドン・キホーテ～」を鑑賞しました。体育館であることを忘れてしまうほどの、迫力のあるプロの演技、歌唱、演出を間近で観ることができました。主人公役の俳優さんの「それまでの進路を変更してまで演劇の道を目指した」というお話は、ミュージカルのストーリーと相まって、夢をもつことの大切さを、私たちに感じさせてくれました。



10月11日（火）子ども国際交流音楽祭（奥多摩交流コンサート）

オーストリア・ウィーンから来日されている音楽家の方々による交流コンサートが、本校体育館で開催されました。来賓の方々や氷川小・古里小の5・6年生も迎え、久々に体育館が人でいっぱいになりました。

第一部では音楽家の方々の伴奏で「ふるさと」を歌い、音楽監督で旧氷川中ご出身の岡部さんから表現指導をしていただきました。第二部では木管五重奏の演奏を鑑賞しました。貴重な機会なのでぜひ交流してほしいという思いから、岡部さんが児童・生徒の質問を通訳してくださり、音楽家の方々の生の声を聞くこともできました。



中体連の活動

＜柔道＞ 多摩地区中学校新人体重別柔道選手権大会
90kg超級 1回戦



生徒会役員 決定



9月27日に、生徒会役員選挙の立会演説会を行いました。
立候補者と推薦人は立派な演説で、「学校を良くしていきたい」という思いを伝え、生徒たちはそれを真剣に聞いていました。今回の選挙は定員4名で、全員信任されました。

会長：（2年） 副会長：（2年）
庶務：（1年） 庶務：（1年）

新生徒会長 の演説

このたび生徒会長に立候補しました、2年A組の です。僕はこの奥多摩中をもっと変えていきたいと思い、それを実行するために立候補しました。奥多摩中の校訓である『協働』という言葉も忘れずに生徒会活動に取り組んでいきたいです。まず僕は次のような学校に変えたいと考えています。

第一に、「楽しめる」学校です。奥多摩中の生徒の中には、学校生活を楽しんでいる人と楽しめていない人がいるように感じます。

そこで、どうしたらだれもが充実して楽しく過ごせるか、生徒会や生徒全員で考えて、今までより楽しい学校を作っていきたいと思っています。みんなが今までよりももっと居心地が良いと感じられる学校にしたいと思います。そのためには生徒皆さんの力も必要です。奥多摩中学校の協働の精神を生かして、生徒皆さんと一緒に居心地の良い学校にしていきたいです。

第二に、「笑って過ごせる」学校です。今、悩み事などで落ち込んでいる人もいます。そのような人たちを、ずっと笑顔にさせるためにも様々なこと、例えばレクリエーションなどを行いたいです。それによって笑顔になれる人がいると思います。

今言った「笑顔」と、1つ目に挙げた「楽しむ」は似ていると思います。なぜなら笑顔じゃない人を見ると、楽しめていないのではないかと感じるからです。笑顔でやれば、何事にも必ず前向きに取り組めると僕は思います。なので、この奥多摩中を笑顔あふれる学校にしていきたいです。

これらの理想を実現させるために、生徒会長に立候補しました。会長になったら大変なこともあると思いますが、笑顔で楽しみながら学校を変えていきたいと思っています。

ぜひ、僕についてきてください。応援よろしくお願いします。

新副会長 の演説

生徒会副会長に立候補しました、2年A組の です。僕は、去年生徒会で経験したことを生かし、生徒がより生活しやすい学校にしたいと思い、生徒会副会長に立候補しました。僕は、去年生徒会活動を通して学んだ企画力や、自分の長所である視野を広くもてる力を生かしていきたいです。

生徒が生活しやすい学校にするために、僕は2点考えました。

一つは昇降口前の傘立ての配置を変えるという案です。昇降口前の傘立ては1、2年生が左、3年生が右となっています。傘を置くためには斜めに移動しなくてははいけません。そのことを僕は不便に感じていました。この問題は傘立ての位置を変えるだけで解決します。これは一部の案に過ぎません。このように、気付きにくい学校の不便な部分を減らしてより快適に過ごせるようにします。

もう一つは、最近目安箱の使用率が低いと思うので、改善を図ります。目安箱の使用率を上げるには、もっと身近に感じてもらうことが大事だと思います。そこでキャッチーな見た目にしたり、「目安箱」という堅苦しい名前を変えたりして、気軽に意見を言えるようなものにします。また定期的に用紙をクラスに配ることで「学校のここがちょっと不便だな」という意見を多く聞けると思います。このような意見は生徒だけでなく先生方からも聞きたいと感じています。なぜなら大人目線で不便と感じている部分も改善していきたいからです。だから、先生方にも定期的に用紙をお配りします。生徒たちと先生方と一緒に良い学校を作っていきたいと思っています。

最後に、僕は今回、正直、生徒会に入ろうか迷っていました。しかしそんなときにある友達が「生徒会をやらないのか」と言ってくれたおかげで、「自分でもっといい学校にしたい」と改めて決心することができました。この副会長という役職は、ある意味「会長の補佐」という捉え方もできます。僕は、自分の視野の広さを生かして会長のサポートをすることで「最強の補佐」になります。学校をより良くするために生徒会活動に取り組んでいきたいので、応援よろしくお願いします。